

農事組合法人キタコマツファーム（三重県四日市市）

北小松の健康・伝統・大地をつなぐ～北小松そだち～



背景

四日市市の南東部にある北小松地区は、小規模農家による水稲作中心の農業がおこなわれてきたが、基盤整備事業を契機として平成11年に「北小松営農組合」を設立。その後、農家の高齢化等により担い手が減少、耕作放棄地の増加が危惧されるなど、将来の地域農業への不安の声が広がったことから、話し合いにより「地域が一体となって農地を守っていく体制」として、平成18年に「農事組合法人キタコマツファーム」に移行した。

取組概要

キタコマツファームは、地域農業の中心経営体として大区画ほ場を含む約21haの水田で、水稲+小麦+大豆の輪作体系を確立しており、エコファーマーの認定取得、ドローンによる病害虫防除、サトイモのたん水栽培の実証試験など、新たな技術や品目の導入にも積極的に取り組んでいる。

また、味噌作りに取り組んでいる女性グループと連携し平成23年に製造部を設立、6次産業化の取組みを開始した。古民家を改修した施設で、法人生産の米と大豆を原料にした味噌作り、地元産のなすと米麴から、なすの麴煮（惣菜）を開発・製造し、ともにJA直売所等で販売し地元の味として好評を得ている。

さらに、緑ゆたかな北小松をまもる会の一員として、自治会、農家組合、長寿会、レディースクラブ等と交流し、地域の美化活動や三世代交流水田、親子芋ほり体験、ゲンジボタル観察会などにも取り組み、農業のみならず地域全体の振興にも大きな役割を果たしている。

三世代交流水田では、児童が長寿会の指導により米づくりを行っており、苗の手植え、鎌を使った稲刈り、足踏み脱穀機による脱穀などの旧来の農法も体験することで、農業や環境保全の大切さを学び文化を伝承している。

今後の展開

高齢化が進み若手後継者の育成が必要であり、2～3年後を目途に複数の若手を後継者として育成する。また、農業所得の向上のため、栽培技術の改善による品質や収量の向上や、新技術・新品目の導入に積極的に取り組む。これらにより、地域の農業、住民が生き生きと暮らせる地域づくりを持続的に進める。

写真で見る団体の取り組み



地域農業の担い手として活動



三世代交流水田での稲刈り



親子芋ほり体験



北小松長寿会の指導による餅つき



女性グループによる味噌作り



女性グループが開発した味噌、なす麴煮